

米油と、米糠由来の有効成分抽出加工と輸出の一貫体制を構築

築野食品工業株式会社

代表者：代表取締役社長 築野 富美

所在地：和歌山県伊都郡かつらぎ町新田94

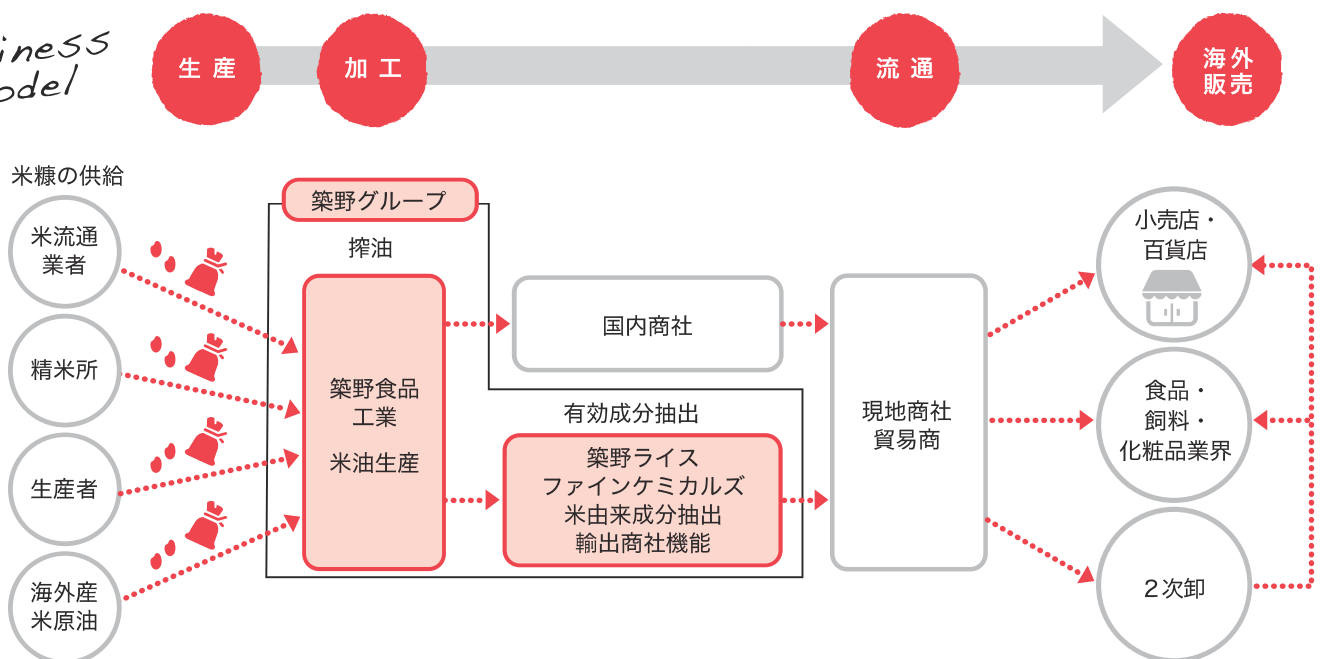
主な品目：イノシトール、米油等 13品目

主な輸出先国：米国、タイ、フランス等 約30か国

事業概要：

グループの築野食品工業が米糠から米油を製造・販売。築野ライスファインケミカルズは米油の製造工程で生じた脱脂米糠やスカム油（精製の際に除去した不純物）からイノシトールやフィチン酸といった有用成分を製造。

Business model



輸出の取り組み内容

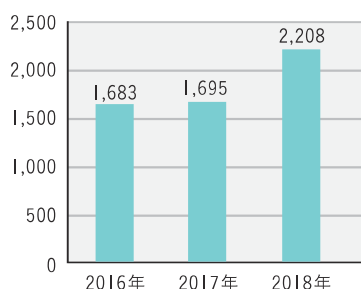
- イノシトールなどの米糠由来の試薬・化学原料から始まり、現在はその他の機能性成分・米油の輸出まで拡大。米油の輸出は2000年にオランダの油脂メーカーに輸出したのをきっかけに開始。
- グループ企業の築野ライスファインケミカルズが輸出商社として米油を含グループ製品の75%を輸出している。
- 海外の米油の需給は年々ひっ迫しているが、日本産を強調するために輸出向け米油は日本国産原料を利用し、デザインも日本らしくすることで高品質・安全をアピールしている。
- 輸出体制は、海外部（11名＋ベトナム駐在員3名）を設置し、輸出事業を統括している。

取り組み経緯

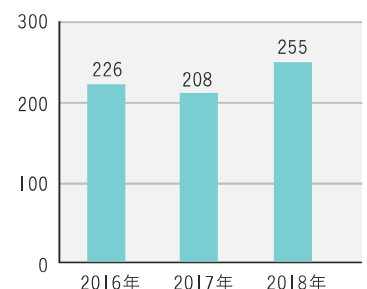
- 後発の米油メーカーであったため、工業用脂肪酸等の食用米油以外の事業にも進出。
- そうした中、副産物である脱脂米糠から有効成分であるイノシトール精製に進出し、欧米に試薬原料・ビタミンとして販売したことが輸出に取り組むきっかけとなった。その後も米糠から抽出できる有効成分のラインナップを増やし、食品・化粧品原料等の用途を開拓。
- 食用米油についても2000年のオランダの油脂メーカーへの輸出を最初に、現在はアジア、欧州を中心に輸出を伸ばしている。

実績

輸出額（百万円）



輸出量（t）



Point!



- 米油製造の副産物から有効成分を抽出する技術が同社の強み。これらは高付加価値製品原料として競争力が高い。
- 米油は輸出先地域の好みに応じてカスタマイズ。例えばベトナムでは大容量米油を好み、科学的なデータを重視するため品質管理を拡充。欧州向けには葡萄山椒を使った香味米油を開発。
- 米糠由来化学品は、10年に一回「米及び米糠の成分による疾病予防」に関するシンポジウムを開催して内外の研究者や化学産業関係者に米・米糠の良さをアピール。

[課題と解決ポイント]

課題 01

当社では米糠は大手の米流通業者から安定的に供給されているものの、米需要の低迷に伴い、原料米糠の調達が年々ひっ迫している。

課題 02

米糠由来機能性物質の海外販路拡大。

課題 03

ベトナムやタイでは、米油は安価な地元産もある中で、差別化を図る必要があった。

解決 01

米糠は工場近郊の業者や農家に呼びかけて少量でも積極的に買い取っているほか、原料調達の担当者が大手の米卸や精米業者等を回って確保しているが、一部は輸入した米糠原油を用いている。ラインを分けて国内指定ユーザーを中心に、輸出用も純国産原料を使用している。

解決 02

1997年（第一回）から10年に1回の頻度で「米及び米糠の成分による疾病予防」に関する国際シンポジウムを主宰。最新の研究報告や商談を行い、新たな用途や販路を開拓。海外営業担当者と国内営業担当者が同行営業するほか、情報連携を密に行っている。海外の化学製品展示会には積極的に参加することで新たな販路を開拓。

解決 03

現地の百貨店等での試食会や、クッキング教室とコラボレーションしたイベントの開催等で知名度を向上させた。ベトナムは特にデータを重視するので、成分表の配布、他の植物油と比較した米油の優位性、ヘルシーさ、日本産の高品質さを前面に出したパンフレットを作り、地道に知名度の向上を図った。

今後の事業展開

- 米油の輸出の拡大。特に東南アジア・中国向けの拡大。
- 米糠由来の有効成分のさらなる商品化と販売の拡大。
- 米由来の有効成分の分離・精製、および製品化に努力する。米生産国と交流し社会に貢献していく。



タイでの試食会



中国輸入国際博覧会のブース



米油の製造ライン